

イチゴ「美濃娘」において 花芽分化を抑制する技術を開発しました

岐阜県育成品種「美濃娘」は、艶のある鮮やかな赤色が特徴で、県内で最も多く栽培されています。近年、秋季に高温となることが多く、高温化により収穫開始が早まることで、果実が小さく、また、単価の高い12月下旬の収穫量が少なくなることが問題となっています。

そこで、育苗期に電照を実施することで、花芽分化を抑制し、出蕾を遅らせ、秋季が高温となっても収穫開始を早めない技術を開発しました。

表1 頂花房の出蕾日(電照期間の比較試験)

試験区	H30作	R1作
電照なし	10月17日 ±1.6日	10月20日 ±3.9日
10日間電照	10月23日 ±0.8日 (6日)	10月23日 ±1.0日 (3日)

*「±」は標準偏差を示す、()内は電照なし区との日数差
H30作の電照開始は8月17日、R1作の電照開始は8月13日

表2 頂花房の出蕾日(電照時期の比較試験)

試験区	H30作	R1作
電照なし	10月17日 ±1.6日	10月20日 ±3.9日
8月中旬	10月23日 ±0.8日 (6日)	10月23日 ±1.0日 (3日)
8月下旬	10月22日 ±1.5日 (5日)	10月26日 ±1.8日 (6日)
9月上旬	10月23日 ±1.2日 (6日)	10月22日 ±5.7日 (2日)

*「±」は標準偏差を示す、()内は電照なし区との日数差
H30作の電照開始は、8月中旬が8月17日、8月下旬が8月27日、9月上旬が9月6日、R1作の電照開始は、8月中旬が8月13日、8月下旬が8月23日、9月上旬が9月2日、電照期間は10日間

表3 苗の生育状況(H30作、9月13日調査)

試験区	草高 (cm)	草丈 (cm)	小葉(cm)		葉色 (SPAD)
			縦	横	
電照なし	10.5	13.1	7.4	5.2	42.7
10日間電照	9.7	13.4	7.3	5.3	41.2
20日間電照	12.2	15.5	7.7	5.6	41.8

* 電照開始は8月17日



電照の状況

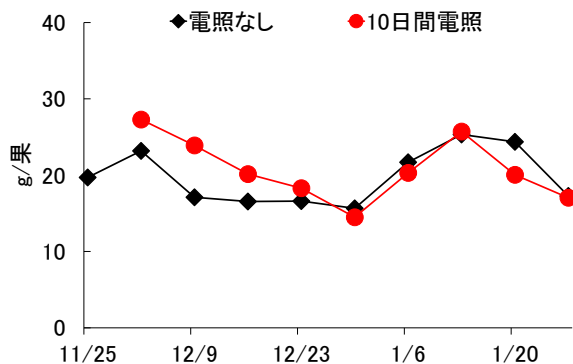


図1 週別平均果重の推移(R1作)

(研究成果)

- ・育苗期に夜間3時間の電照を10日間程度実施することにより、出蕾を5日程度遅らせることができます。
- ・電照する時期は、8月下旬で効果が安定しており、9月上旬では個体差が大きく、効果が不安定です。
- ・10日間電照で収穫開始が1週間程度遅れ、収穫開始の果実が大きくなります。
- ・20日間以上の電照では、出蕾が更に遅くなりますが、苗が徒長傾向になります。
- ・花芽分化前定植後に本圃で電照した場合も同様の遅れる効果があります。